

JWF ファンド 2023の完了プロジェクト概要

Kahinju小学校と地域の給水改善(ウガンダ)

- 実施団体: Rwenzori Aid
- 実施地: ウガンダ 西部地域カバロレ県Fort Portal City
- 費用: 2,141ドル (JWFファンド1,380ドル、団体617ドル、受益者144ドル)
- 受益者数: 1,216人(生徒1,116人、教師45人、住民55人)
- 実施地の水問題:

ウガンダの人々にとって、水へのアクセスが限られているのは大きな課題である。35%以上の村落では清潔で安全な水へのアクセスがなく、学校でも50%未満しか安定した水へのアクセスがない。西部のフォートポータル市にあるこの学校も水供給が不安定で、週2回自治体から給水されるのみだった。学校には982人の生徒と43人の教師があり、近隣住民も水の供給に同じ課題を抱えていた。貯水タンクの設置は、学校と地域コミュニティがともに使用する水の貯蔵に役立てられると見込まれた。

【実施前】



近隣の井戸から水を汲む生徒

【実施中】



雨水貯留タンク、給水栓設置工

【実施後】



給水栓を使う生徒

- 主な活動内容: 雨水貯水槽・校内手洗い場8カ所・地域2水栓の設置、校内衛生クラブの設置、WASH衛生習慣研修、女子学生生理用品実習、学校管理委員会による施設管理等。
- 持続可能な活動: 学校と地域の連携により使用料を徴収して、管理組合が維持管理をする。

JWF ファンド 2023のフォローアップ調査結果

Kahinju小学校と地域の給水改善(ウガンダ)

【現状】

- ・2025年11月19日フォローアップ調査を実施した。雨水貯水槽は問題なく機能していたが、手洗い用の給水栓が破損したこともあった。破損した給水栓は学校管理者によって交換修理された。
- ・施設の適切な使用は低学年の生徒にとって課題で、低学年の生徒は1年に6回蛇口を壊し、毎日水場を散らかして学校側は指導に苦心していた。地域側の給水栓をはじめとした施設は良好な状態で、住民によって適切に利用されていた。
- ・施設の管理は学校と地域が委員会を結成して行っていた。委員会は校長、衛生担当教員、共同体の指導者、村の保健リーダーで構成されていた。
- ・給水施設の適切な維持管理のために、世帯は毎月、生徒は学期ごとに拠出する基金があった。施設の破損や不適切な使用は、学校警備員が管理委員会に報告していた。衛生クラブの生徒は、訓練を受けて施設の適切な使用方法を他の生徒に指導していた。委員会には学校管理者と共同体からの予算があり、施設管理の訓練を受けた担当者を配置して、施設の管理・運営を行っていた。



JWF寄付と表示された雨水貯水槽前で学生から聞き取り調査



雨水貯水槽から水を飲む生徒たち



地域給水栓の使用状況

【変化】

- ・生徒たちは、すべての必要な場面で清潔な水と石鹼で手を洗う習慣を身につけた。学校の環境(トイレ、校庭、教室、調理場、女子の生理衛生エリアなど)は定期的に清掃されていた。水へのアクセスを確保する雨水貯水槽は少なくとも学期に一度清掃されるようになった。水需要が増えたので、学校では井戸などによる水源の追加を計画している。
- ・受益者はWASH活動を実践したために、水系感染症の発生は減少した。

【その他】

- ・実施団体はこのプロジェクト後も複数の学校や共同体で国内の水環境省・Agua.Ong(スペイン)資金で水や衛生の改善プロジェクトを行った。
- ・人材不足、政治家からの影響もあるが、最も大きな課題は資金の不足。
- ・2026年のJWF Fundでは、地域共同体により大きな影響を与えるため、現在の1,500米ドルからより高額に増額することを希望する。

JWF ファンド 2023のフォローアップ調査結果

Kahinju小学校と地域の給水改善(ウガンダ)

現場からの声(抜粋)



Ms. Katusiime Agnes (36歳 校長先生)

- ・トイレや校庭に設置された手洗い施設で、学生や教員は重要な場面(トイレ使用後や食事前)で手を洗う習慣を実践しています。学校の環境(校庭、トイレ、教室)は常に清潔に保たれています。女子生徒用の生理衛生エリアも常に清潔で、十分な設備が整っています。野外排泄はなくなり、すべての学生がトイレを使用しています。清浄な水へのアクセスは確保されましたが消毒剤はまだです。
- ・学校の子どもと地域住民の下痢や感染症の発生率は、1学期あたり120例から60例に減りました。人口の約4.9%です。
- ・学校における安全で清潔な飲料水へのアクセスが確保され、水系感染症の発生率が低くなり、健康状態改善、学校への出席率が向上しました。医療費の削減や時間の節約による学業成績の向上や教育レベルの向上が期待されます。特に女子生徒は多くの生理関連の希望がかなって快適さ、尊厳、安全性が確保され、中途退学率が低くなりました。



Mr. Tusiime Emmanuel (29歳 管理委員会 施設係)

- ・管理委員会の役割として、警備員は学校のWASH施設に関する損傷等を全て委員会に報告して、委員会のリーダーよりその内容を学校管理者に直接報告しています。
- ・学校側に施設の修理や維持管理に関する委員会の個別業務を支援するための、年間予算があり業務に必要な人材や資金は確保されています。
- ・受益者からのフィードバックはありました。生徒や教員は、日本水フォーラムのプロジェクトに感謝しています。このプロジェクトは、学校への水アクセスを向上させただけでなく、衛生習慣やその他のWASH実践の行動変容にもつながりました。さらに、必要な際に適切な修理や維持管理を行う学校管理者の取り組みにも賞賛の声が寄せられました。



Ms. Karungi Martha (10歳、生徒)

- ・私たちは給水施設をいつも利用していて、とてもよいと思っています。
- ・WASH研修によって、私は制服を清潔に保ち、トイレの使用後には水と石鹼で手を洗い、食事の前後にも手を洗うようになりました。環境を清潔に保つため、ゴミは指定のゴミ箱に捨てています。
- ・このプロジェクト後から私は果物を食べる前に洗うようになりました。両親には飲料水の煮沸を勧め、家のトイレは清潔に保って、いつも石鹼と清潔な水で手を洗うようにと伝えました。



学校内で面談調査